

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2023年8月25日）

### ■第1版 第1刷（2023年4月15日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第2章-2) 所見の読み方					
109	下から3行目	(旧カルチノイド)や胃底腺型 <b>胃</b> 癌といった、...	(旧カルチノイド)や胃底腺型 <b>腺</b> 癌といった、...	本書内での表記統一	23/05/24
113	図10 キャプション B)	B)・・・高分化 <b>型</b> 腺癌であり、...	B)・・・高分化 <b>管状</b> 腺癌であり、...	同上	23/05/24
114	表・1行目と2行目	充実型低分化 <b>型</b> 腺癌(por1) 粘膜下浸潤を伴う低異型度高分化 <b>型</b> 腺癌	充実型低分化腺癌(por1) 粘膜下浸潤を伴う低異型度高分化 <b>管状</b> 腺癌	同上	23/05/24
116	図12 キャプション E)	( <b>聖域もしくはインザル</b> )	( <b>島状粘膜残存</b> )		23/05/24
第2章-3) 色素やIEEを用いた拾い上げ診断					
124	図3 キャプション D)	生検で <b>分化型</b> 腺癌と診断された	生検で <b>高分化管状</b> 腺癌と診断された	本書内での表記統一	23/05/24
第2章-4) Helicobacter pylori (H. pylori) 感染の内視鏡診断					
142	5行目	境界より口側の胃固有粘膜から印環細胞癌を主とする未分化 <b>型</b> 腺癌が発生し、	境界より口側の胃固有粘膜から印環細胞癌を主とする未分化 <b>型</b> 癌が発生し、	本書内での表記統一	23/05/24
142	9行目	<b>型</b> 腺癌が多い、などがあげられます。	<b>型</b> 癌が多い、などがあげられます。	同上	23/05/24
143	図17	-	A-2 から B-0 に向かう矢印を割愛		23/05/24
第2章-5) 腫瘍非腫瘍の鑑別（白色光）					
148	図5 C)の①	①萎縮粘膜における血管透視 <b>増</b> の途絶	①萎縮粘膜における血管透視 <b>像</b> の途絶		23/05/24
150	4行目	( <b>分化型</b> 腺癌)	( <b>高分化管状</b> 腺癌)	本書内での表記統一	23/05/24
第2章-7) 深達度診断					
168	下から6～7行目	・・・未分化型で潰瘍合併しているものは内視鏡治療適応外となるため、組織型が未分化の場合は特に注意が必要です。	・・・未分化 <b>型</b> 癌で潰瘍合併しているものは内視鏡治療適応外となるため、組織型が未分化 <b>型</b> 癌の場合は特に注意が必要です。	本書内での表記統一	23/05/24
169	7行目	分化 <b>型</b> 腺癌では不整な・・・	分化 <b>型</b> 癌では不整な・・・	同上	23/05/24
第2章-8) H. pylori除菌後胃癌					
175	下から10行目	・・・50%, 高分化 <b>型</b> 腺癌の24%が・・・	・・・50%, 高分化 <b>管状</b> 腺癌の24%が・・・	本書内での表記統一	23/05/24
176	A2-2: 解説3行目	除菌後の分化 <b>型</b> 腺癌の見落とし率を	除菌後の分化 <b>型</b> 癌の見落とし率を	同上	23/05/24
178	下から12～14行目	分化 <b>型</b> 腺癌の約40%に出現すると報告されています <sup>21)</sup> 。未分化 <b>型</b> 腺癌については除菌後に非腫瘍性上皮の被覆は出現せず、除菌後に背景粘膜の炎症が消退することによって、分化 <b>型</b> 腺癌とは	分化 <b>型</b> 癌の約40%に出現すると報告されています <sup>21)</sup> 。未分化 <b>型</b> 癌については除菌後に非腫瘍性上皮の被覆は出現せず、除菌後に背景粘膜の炎症が消退することによって、分化 <b>型</b> 癌とは	同上	23/05/24
181	2～4行目	分化 <b>型</b> 腺癌が約80%と大部分を占め、未分化 <b>型</b> 腺癌は約20%と報告されています <sup>29, 30)</sup> 。しかし、除菌後10年が経過すると軽度～中等度(C1-O1)萎縮の症例では未分化 <b>型</b> 腺癌の発生リスクが増加するため、除菌後では時間経過とともに未分化 <b>型</b> 腺癌に	分化 <b>型</b> 癌が約80%と大部分を占め、未分化 <b>型</b> 癌は約20%と報告されています <sup>29, 30)</sup> 。しかし、除菌後10年が経過すると軽度～中等度(C1-O1)萎縮の症例では未分化 <b>型</b> 癌の発生リスクが増加するため、除菌後では時間経過とともに未分化 <b>型</b> 癌に	同上	23/05/24

181	■おわりに 下から2行目	除菌後10年経過した場合には未分化型 <b>腺癌</b> に	除菌後10年経過した場合には未分化型 <b>癌</b> に	同上	23/05/24
第2章-9) H. pylori未感染胃癌					
185	4行目	低異型度の分化型 <b>腺癌</b> です	低異型度の分化型 <b>癌</b> です	本書内での表記統一	23/05/24
189	4行目	低異型度の分化型 <b>腺癌</b> であり,	低異型度の分化型 <b>癌</b> であり,	同上	23/05/24
190	10行目	腺窩上皮細胞への分化を示す分化型 <b>腺癌</b> です	腺窩上皮細胞への分化を示す分化型 <b>癌</b> です	同上	23/05/24
第2章-10) H. pylori現感染胃癌					
197	図1	<b>酸性</b>	<b>酸</b>	3カ所修正	23/05/24
198	下から7行目	(特異 <b>的</b> 腸上皮化生)	(特異 <b>型</b> 腸上皮化生)		23/08/25
200	図4 見出し	A 特異 <b>的</b> 腸上皮化生[WLI(左), LCI(右)]	A 特異 <b>型</b> 腸上皮化生[WLI(左), LCI(右)]		23/08/25
200	図4 キャプション	A)・・・特異 <b>的</b> 腸上皮化生は、・・・	A)・・・特異 <b>型</b> 腸上皮化生は、・・・		23/08/25
第2章-11) 困った状況を切り抜ける					
206	Q6	<b>未分化型混在胃癌</b>	<b>組織混在型早期胃癌</b>	本書内での表記統一	23/05/24
206	A6解説3行目	胃癌は分化型として扱われますが,	胃癌は分化型 <b>癌</b> として扱われますが,	同上	23/05/24
206	Q7	<b>分化度混在癌</b>	<b>組織混在型早期胃癌</b>	同上	23/05/24
209	A15解説3行目	高分化 <b>型</b> 腺癌と腺腫, 中分化 <b>型</b> と低分化腺癌の判別などは,	高分化 <b>管状</b> 腺癌と腺腫, 中分化 <b>管状腺癌</b> と低分化腺癌の判別などは,	同上	23/05/24
第3章-2) 腫瘍非腫瘍の鑑別					
230	4行目	とします。日本のバレット食道のほとんどはSSBEであるため,	とします[注:その後「食道癌取扱い規約第12版」(日本食道学会/編)より、 <b>欧米と同様の基準となり、バレット粘膜が3cm未満であるものをSSBEと扱い、一部でも3cm以上のバレット粘膜を認める場合を「LSBEと扱うこととなっている」</b> 。日本のバレット食道のほとんどはSSBE( <b>旧規約</b> )であるため,	「食道癌取扱い規約第12版」に合わせ注釈を追加	23/05/24
第5章-1) 食道 (バレット食道腺癌)					
269	図6 キャプション	・・・, →::扁平上皮 <b>癌</b> , ・・・, <b>lv(-)</b> (D2-40), <b>v(-)</b> (E-Ma), ・・・	・・・, →::扁平上皮 <b>癌</b> , ・・・, <b>lv0</b> (D2-40), <b>v0</b> (E-Ma), ・・・		23/05/24
第5章-3) 胃 (H. pylori陰性胃の病変)					
283	下から2行目	HpSA	HpSA( <b>便中HP抗原</b> )		23/05/24
第5章-4) 胃 (PPI後の形態変化)					
290	3行目	<b>制酸薬は服用</b> していません。	<b>H<sub>2</sub>受容体拮抗薬(H2RA)、プロトンポンプ阻害薬(PPI)、Kイオン競合型アシッドブロッカー(P-CAB)は内服</b> していません。		23/05/24
294	3行目	高分化 <b>型</b> 管状腺癌(tub1)	高分化管状腺癌(tub1)	本書内での表記統一	23/05/24